

## 平成30年度特別支援教育に関する実践研究充実事業

(次期学習指導要領に向けた実践研究)

成果報告書 (概要)

受託団体名
京都府教育委員会

## 1. 指定校の一覧

設置者	障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
京都府	知的・肢体不自由	きょうとふりつたんばしえんがっこう 京 都 府 立 丹 波 支 援 学 校
京都府	聴覚障害	きょうとふりつろうがっこう 京 都 府 立 聾 学 校
京都府	知的・肢体不自由	きょうとふりつむこうがおかしえんがっこう 京 都 府 立 向 日 が 丘 支 援 学 校

## 2. 事業の実績

## (1) 事業の実施日程

【府立丹波支援学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 30 年度校内研究推進プロジェクト発足及び関係者会議</li> <li>・ 外部協力者 (学校評議員・教育関係者・地域関係者) の依頼</li> <li>・ 研究協力者の依頼 植草学園大学 教授 名古屋恒彦 京都府 S S C 専門家チーム相談員 今泉祥子</li> </ul>	
5 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 11 日全校研究会 公開研修会 植草学園大学 教授 菊地一文 講演「キャリア発達の視点を踏まえた新学習指導要領」</li> </ul>	
12 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 21 日全校研究会 (名古屋先生・今泉先生からの指導・助言)</li> </ul>	・研究協力者による授業改善の評価
平成 31 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 22 日第 2 年次研究報告会 研究報告・公開授業 (7 学級)・パネルディスカッション 講演 植草学園大学 教授 名古屋 恒彦 「共生社会の形成に向けた社会に開かれた教育課程と各教科等を合わせた指導の授業づくり」</li> <li>・ 研究報告書発行</li> </ul>	・研究報告会参加者による研究成果の評価
通年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全学級授業研究会 (19 回)</li> <li>・ 学校公開日 7 回</li> <li>・ 学校評議員会・学校関係者評価委員会 3 回</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者・地域の方による学校公開の評価</li> <li>・ 研究協力者による授業改善の評価</li> <li>・ 外部協力者による評価</li> </ul>

【府立聾学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 7 月	校内授業研 指導・助言及び講演	授業改善プロジェクト取組に対する助言、高等部「現代社会」研究授業における事後研での指導・助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。
8 月	全国研究大会参加（東京、京都） 学部夏季研 指導・助言及び講演	授業研究・改善に向けて、国語教育、数学教育の全国研究大会に参加。 学部内夏季研究会において、研究発表内容に対する指導・助言及び授業改善への講演。（分校）
9 月	校内授業研 指導・助言及び講演	小学部「国語」研究授業における事後研での指導・助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。
10 月	校内授業研 指導・助言及び講演 全日本聾教育研究大会（北海道）	幼稚部研究授業における事後研での指導・助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。 全国聾学校の事例・課題の交流・研究
11 月	校内授業研 指導・助言及び講演 道徳研究大会（兵庫） 先進校視察（広島）	中学部「国語」研究授業における事後研での指導・助言及び学習指導要領に基づく授業改善への講演。 特別な教科「道徳」の研究大会参加。早期・幼稚部教育及び高等部進路指導等について先進校視察。
平成 31 年 2 月	公開研究会（実践報告会）指導・助言及び講演	実践研究充実事業の今年度到達点を幼稚部、小学部、中学部、高等部から報告、各学部分科会での指導・助言及び基調講演。

【府立向日が丘支援学校】

実施時期	実施内容	評価事項
平成 30 年 4 月	第 1 回全校研究会	研究協力者による指定校の研究内容・研究計画についての評価
平成 30 年 5 月 ～ 7 月	1 学期研究授業月間	研究協力者による授業評価と、授業改善の観点についての助言
平成 30 年 5 月 ～ 7 月	学部研究会（授業改善研究）	研究協力者による授業評価と、授業改善の観点についての助言

平成 30 年 7 月	第 2 回全校研究会	研究協力者による 1 学期に実施した授業改善研究の取組についての評価
平成 30 年 7 月	第 1 回学校評議員会議	学校評議員による研究評価
平成 30 年 9 月 ～12 月	2 学期研究授業月間	研究協力者による授業評価と、授業改善の観点についての助言
平成 30 年 9 月 ～12 月	学部研究会（授業改善研究）	研究協力者による授業評価と、授業改善の観点についての助言
平成 30 年 11 月	社会に開かれた行事「学校祭」の実施	外部評価（地域住民、保護者）
平成 30 年 11 月	第 2 回学校評議員会議	学校評議員による研究評価
平成 30 年 12 月	第 3 回全校研究会	研究協力者による 2 学期に実施した授業改善研究の取組についての評価と、カリキュラムマネジメントについての助言
平成 31 年 1 月 ～2 月	学部研究会（授業改善研究）	研究協力者による授業評価と、授業改善の観点についての助言
平成 31 年 3 月	第 3 回学校評議員会議	学校評議員による研究評価
平成 31 年 3 月	第 4 回全校研究会	研究協力者、指導主事による年間の授業改善研究とカリキュラムマネジメントの取組についての評価

## (2) 研究課題

特別支援学校次期学習指導要領の実施に向け、「社会に開かれた教育課程」や「主体的・対話的で深い学びの視点」を軸に 3 つの指定校で教育課程及び授業改善の実践研究に取り組む。

## (3) 研究の概要

### 【府立丹波支援学校】

地域の特色を生かした実践を教育課程に位置付けることにより、児童生徒が地域社会で「豊かに生き抜く」力を育成する。また児童生徒が地域の中で活動し、その活動の様子を地域に向けて発信するなど、「社会に開かれた教育課程」を具現化し、学校及び児童生徒や障害についての理解と認識を広げ、共生社会の形成に貢献するために「授業改善」「社会に開かれた教育課程づくり」「交流及び共同学習」「地域との関係づくり」の 4 つの柱を軸として実践的研究を進めた。

### 【府立豊学校】

「魅力のある学校づくり」を合い言葉に、各教科等を中心に学んでいる聴覚障害のある幼児児童生徒にとってよく分かる授業づくり・授業改善の取組として、公開授業などをおして

教職員同士で研究する。また幼児児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」のある授業づくりを目指し「授業改善プロジェクト」チームを立ちあげ、各教科等を学ぶにあたり必要なつけておきたい基礎的な力、言語力の向上等について、全校的に研究を進めた。

**【府立向日が丘支援学校】**

障害のある児童生徒を含む多様な人々の社会貢献の在り方について視察等により先行事例研究を行う。また地域社会と協働した教育活動の在り方について明らかにするために地域社会における人的・物的な資源をリサーチし、教育が目的とするところを共有し、教育効果が見込める活動を展開するために実践的研究を進めた。また生徒が卒業後に社会に貢献できるための指導のあり方やそのためのカリキュラム・マネジメントについて研究を進めると同時に特別支援学校と地域社会との連携協働を実現する学校経営のあり方について研究を進めた。

**(4) 研究の成果**

**【府立丹波支援学校】**

授業改善では「つきたい力表」をもとに3観点で評価規準を設定しPDCAサイクルでの授業改善に取り組むことができた。交流及び共同学習の取組、地域の方や地域の施設とどのように繋がったのかを整理した「T（丹波）S（支援）G（学校）つながりマップ」等の作成をとおして学校の中だけで物事や子どもの育ちを捉えるのではなく、学校から地域に働きかけたり、地域の方の声や要望・期待を受け止めることで地域社会の一員として地域に貢献し共に歩みを発展することができる取組を進めることができた。

**【府立聾学校】**

全校プロジェクト内作業部会（国語、算数・数学、道徳、自立活動）において、幼稚部から高等部までの各学年の年間計画（学習内容や単元）について交流し、特に道徳については道徳的内容を学部毎に整理し、一覧表を作成することができた。また外部専門家による継続的な指導・助言より、授業改善に向けた研究を深めることで、幼児児童生徒にとっての「わかる授業」を追求し、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善により、各教科等を学ぶにあたり必要な言語力及び学力の向上につながることを検証することができた。

**【府立向日が丘支援学校】**

地域社会と連携協働した教育活動の在り方について検討し、地域社会と関連した授業、地域社会と連携協働した行事に取組み、直接的に地域展開しなくても普段の授業のなかに共生社会で生きる視点をもった授業が重要であることを明らかにした。また児童生徒の能力や可能性を最大限発揮する指導の在り方について、「授業改善シートを」作成し、指導のねらいと評価等について検討し、単元における児童生徒の到達目標を明確にすることができた。

**(5) 課題と今後の方策**

**【府立丹波支援学校】**

授業改善研究をとおして次期学習指導要領で示された3観点を踏まえた評価の設定、各教科の視点を踏まえた授業づくりについて、引き続き各教科の「各段階の目標及び内容」をふまえた学習指導（単元設定）を充実させることが課題である。またつながる地域の方々、つながる目的やそれぞれの役割を確認しながらお互いに有効感を持つことができる関わり方について今後も研究を進めていく。

**【府立豊学校】**

幼稚部から高等部までの15年間の切れ目ない年間計画（学習内容や単元）について交流し、各学部で取り組まれてきた内容を全教員で確認できた一方で、カリキュラム・マネジメントの考え方が教員一人一人に定着するまでには至っておらず、各学部を軸として教育課程の編成、カリキュラム・マネジメントについて研究を進める。さらに他教科との連携、学部間の継続した切れ目ない教材配列等の見直しなどについて検討する。

**【府立向日が丘支援学校】**

地域社会のなかに、特別支援教育や障害のある児童生徒の能力や可能性について共感的な理解が少しずつ広がってきているが、場を共有するだけに留まらない、児童生徒の成長を近くで見守り、協働する地域社会のさらなる広がりをつくっていくために、学部間の学びの連続性を意識した教育課程の整理、教科等横断的な視点、生きる力につながる教科の視点からの年間指導計画の充実、教科の観点からの指導のねらいの具体化等について授業改善研究を進める。